

施策名	目標 5-7 国際観光資源の整備	担当部局名	自然環境局 総務課 国立公園課 国立公園利用推進室 自然環境整備課		
施策の概要	美しい国立公園等の自然を持続的に活用し観光資源の整備等により国内外の旅行者の地域での体験や滞在の満足度の向上を図るとともに、地域の経済社会を活性化させ、自然環境への保全へ再投資される好循環を生み出す。	政策評価実施予定時期		政策評価実施時期	令和 6年 8月
達成すべき目標	2025年までに国内外の国立公園利用者数を新型コロナウイルスの影響前に回復させ、平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」に掲げる2030年訪日外国人旅行者数6,000万人等の目標や、2023年3月に策定された「観光立国推進基本計画」に掲げる2025年までに訪日外国人利用者数を2019年水準超えにする目標と「観光先進国」の実現に貢献するとともに、国立公園の保護と利用の好循環を実現する。	政策体系上の位置付け	5. 生物多様性の保全と自然との共生の推進		

施策に関係する内閣の重要政策  
(施政方針演説等のうち主なもの)

第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定)

測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値								測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	達成	
	基準年度	目標年度	年度ごとの実績値												
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度						
1 国立公園訪日外国人利用者数	490万人	H27年度	667万人	R7年度	-	-	-	-	-	667万人	-	-	-	・政府の「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき実施している「国立公園満喫プロジェクト」において、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ国内外利用者をコロナ影響前の水準に回復することを新たな目標として設定しているため。	-
2 滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数(累積)	-	-	35拠点	R7年度	10拠点	20拠点	25拠点	30拠点	-	35拠点	-	-	-	・利用拠点計画に基づき、滞在環境の上質化に向けて、民間活力導入を前提とした廃屋撤去、インバウンド機能向上、文化的まちなみ改善の事業を実施することにより、国立公園利用者の体験滞在の満足度向上やリピーター増加に繋がることから、目標値として設定した。	△
3 利用施設の多言語化	-	-	40施設	R5年度	40施設	40施設	40施設	40施設	-	-	-	-	-	・国立公園・国定公園等の自然体験拠点における案内板や、ビジターセンター等の施設を中心として、スマホアプリ、QRコード等のICTを駆使し、現地の自然・文化・歴史が繋がる奥深い多言語解説を面的に充実させる目標を定めたもの。令和6年度以降の目標値は令和5年度実績を見て検討する。	○
4 ビジターセンター等機能強化	-	-	60施設	R5年度	60施設	60施設	60施設	60施設	-	-	-	-	-	・国立公園の利用拠点であるビジターセンター等の情報提供機能を強化することにより、体験滞在の満足度向上やリピーターの増加等につながるため、機能強化の実施施設数を目標として定める。 ・自然を満喫できるアクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供する機器等の整備、VR等のデジタル技術を活用した国立公園の理解を深める情報提供施設等の整備のいずれかを実施した場合には、1施設としてカウントする。令和6年度以降の目標値は令和5年度実績を見て検討する。	△
5 国立公園一括情報サイトの訪問回数等(接触媒体者数)	-	-	117万	R7年度	117万	117万	117万	117万	117万	117万	-	-	-	・訪日外国人に対して、効果的・効率的な国立公園の情報発信を行うため、JNTOグローバルサイト内に国立公園の一括情報サイトを構築(H31.2)し、当該サイトを通じて情報発信を行うとともに、各種海外メディア等により国立公園の認知向上に寄与する記事配信等を行っており、これらの情報発信に対するユーザーの閲覧状況を計る目標を定めたもの。	△
6 国立公園における自然体験コンテンツガイドラインを満たす自然体験コンテンツ数	-	-	600	R5年度	-	-	500	600	-	-	-	-	-	自然体験活動促進計画、インタープリテーション計画等の計画に基づき自然体験コンテンツの整備が進むことにより、滞在の満足度向上やリピーターの増加等につながるため、国立公園における自然体験コンテンツガイドラインのフェーズ1を満たす自然体験コンテンツ数を目標として定める。	△
					-	-	588	580	-	-	-	-	-		

達成手段 (開始年度)	関連する指標	行政事業 レビュー 事業番号	達成手段 (開始年度)	関連する指標	行政事業 レビュー 事業番号	達成手段 (開始年度)	関連する指標	行政事業 レビュー 事業番号	達成手段 (開始年度)	関連する指標	行政事業 レビュー 事業番号	達成手段 (開始年度)	関連する指標	行政事業 レビュー 事業番号
(1) 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業(令和元年度)	1.2	0256	(5) 京都御苑訪日外国人観光促進事業(令和2年度)	1	0268	(9) -	-	-	(13) -	-	-	(17) -	-	-
(2) 国立公園等多言語解説等整備事業((旧)国立公園多言語解説等整備事業)(平成30年度)	1.3	0297	(6) 国立公園等の自然を活用した滞在型観光コンテンツ創出事業(令和3年度)	1.6	0283	(10) -	-	-	(14) -	-	-	(18) -	-	-
(3) 国立公園利用促進事業(令和元年度)	1.4	0259	(7) 京都御苑魅力向上資源アーカイブ事業(令和3年度)	1	0282	(11) -	-	-	(15) -	-	-	(19) -	-	-
(4) 国立公園利活用促進円滑化事業(令和元年度)	1.5	0260	(8) -	-	-	(12) -	-	-	(16) -	-	-	(20) -	-	-

目標達成度 合いの 測定結果	(各行政機関共通区分)	③相当程度進展あり
	(判断根拠)	滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数、利用施設の多言語化、国立公園一括情報サイトの訪問回数等について、令和5年度実績値は、目標値を大きく超えるペースで増加しており、受入環境整備が進展している。その他の取組についても目標値達成まで到達していないが、着実に実績が出ており、受入環境整備に貢献している。国立公園訪日外国人利用者数については、新型コロナウイルス感染症の影響により目標値が設定できなかったが、実績値が585万人と順調に回復を見せており、着実に実績が出ている。
目標達成が 出来なかつ た要因、そ の他施策の 課題等	多言語化や利用拠点の上質化などは、我が国ならではの特徴を有する国立公園の魅力を感じて質の高いツーリズムを提供するにあたって必要な受入環境を整備するものであり、「観光先進国」の実現に必要なものであることから、引き続き実施し、回復期に向けた取組を進めることが必要である。 さらに、今後の回復に向けて、国立公園一括情報サイト等を通じた国立公園の魅力の情報発信により、状況を踏まえながら誘客を行っていくことが必要である。	

評価結果	次期目標等への反映の方向性	<p><b>【施策】</b></p> <p>インバウンドの回復を受けて、2021年以降の訪日外国人利用者数の目標設定については、2025年までに訪日外国人の国立公園利用者数を新型コロナウイルスの影響前に回復させることとし、平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」に掲げる2030年訪日外国人旅行者数6,000万人等の目標と「観光先進国」の実現に貢献することとする。</p> <p><b>【測定指標】</b></p> <p>＜国立公園訪日外国人利用者数＞ インバウンドの回復を受けて、新型コロナウイルスによる影響を受ける前の数値を目標として、段階的な回復を目指す。</p> <p>＜滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数＞ 利用拠点の再生・上質化が進むことで魅力が向上し、来訪者の増加、滞在時間の増加が図られるため、引き続き、官民による国立公園利用拠点計画を作成し、滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数の増加を図っていく。</p> <p>＜利用施設の多言語化＞ 令和5年度目標に対し、目標値を大きく超えて整備は進んでいるが、外国人観光客が情報収集を行う際のツールとして引き続きの整備が必要なことから、令和5年度までの取組状況を踏まえ、令和6年度以降の整備目標を設定して、取組を進める。</p> <p>＜ビジターセンター等機能強化＞ 国立公園利用の拠点となるビジターセンターの機能強化を図ることで、外国人観光客にわかりやすく国立公園の魅力を伝えることが可能となることから、令和5年度までの取組状況を踏まえ、令和6年度も令和5年度までと同程度の整備目標を設定して取組を進める。</p> <p>＜国立公園一括情報サイトの訪問回数等＞ 国立公園一括情報サイトについて、新型コロナウイルスによる影響を受ける前の数値を目標として、引き続き訪問回数等の段階的な回復を目標とする。</p> <p>＜国立公園等の自然を活用した滞在型コンテンツ創出事業により造成等されたコンテンツ件数＞ 令和4年3月に「国立公園における自然体験コンテンツガイドライン」を作成し、同年後半以降、自然体験コンテンツの内容、安全対策・危機管理、環境への貢献・持続可能性の3つの観点から、一定の基準をクリアしたコンテンツを計測することが可能となったことから、国立公園の目指す上質なツーリズムに貢献する質の高いコンテンツの指標として、「国立公園における自然体験コンテンツガイドラインを満たす自然体験コンテンツ数」とする。</p>			
学識経験を有する者の知見の活用		国立公園満喫プロジェクト有識者会議において、取組内容について報告するとともに、出された意見を施策に反映している。		SDGs目標との関係	<p><b>【主な目標】</b></p> <p>国立公園利用者を誘致し、体験の場、コンテンツを整備することで、「観光先進国」の実現に貢献するとともに、国立公園の保護と利用の好循環を実現することを目指しており、国内を代表する貴重な自然環境を有する国立公園の自然環境の保全に資することから、目標14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」に貢献した。</p> <p><b>【副次的効果が期待される目標】</b></p> <p>国立公園利用者を誘致し、体験の場、コンテンツを整備するにあたり、地域との連携・協働により実施していること、国立公園の多くが過疎地域を含み、過疎地域における地域活性化に繋がることから、目標11「住み続けられるまちづくりを」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」に貢献した。</p>
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報		国立公園訪日外国人利用者数推計値			